

大雪山の火山活動解説資料（平成28年9月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～6）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

4日から5日にかけて実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔で、噴気温度が100℃以上の高温状態が継続していました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、I-5噴気孔周辺の地熱域がわずかに縮小していました。それ以外の噴気孔及びその周辺の状況に特段の変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

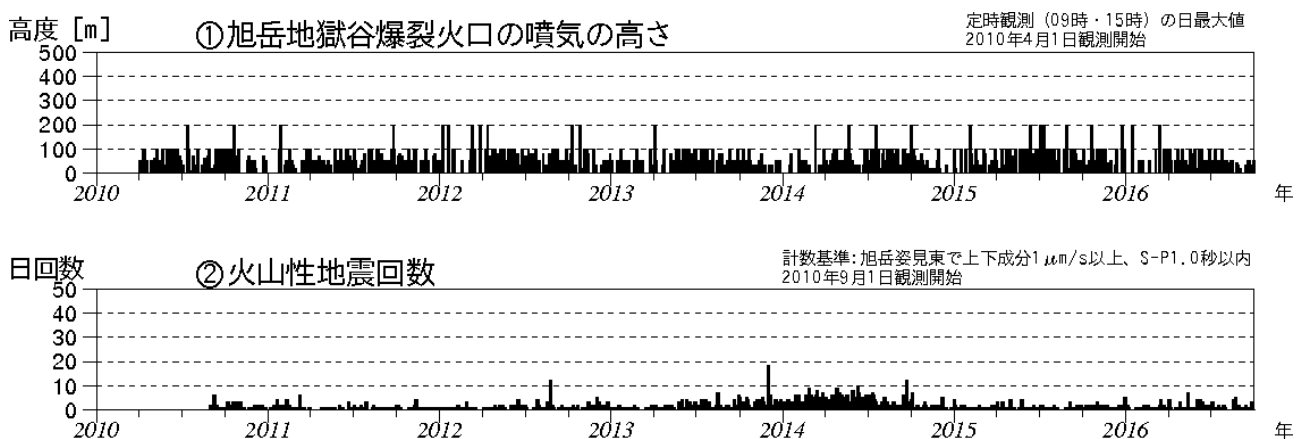


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2016年9月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平26情複、第658号）。

次回の火山活動解説資料（平成28年10月分）は平成28年11月9日に発表する予定です。

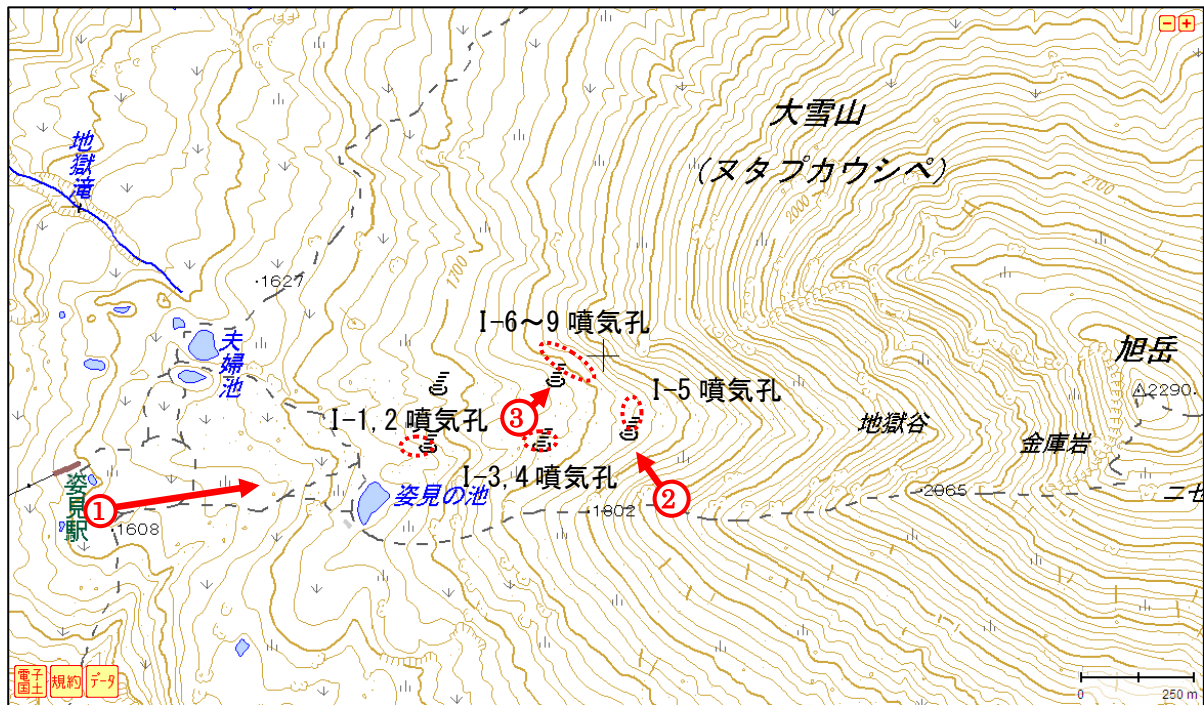


図 2 大雪山 噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向

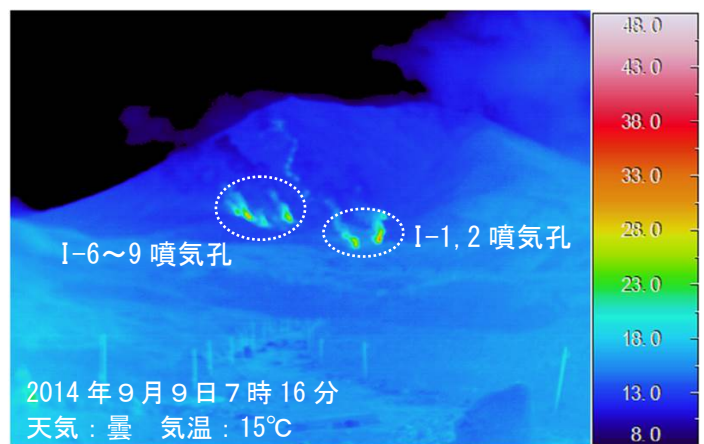
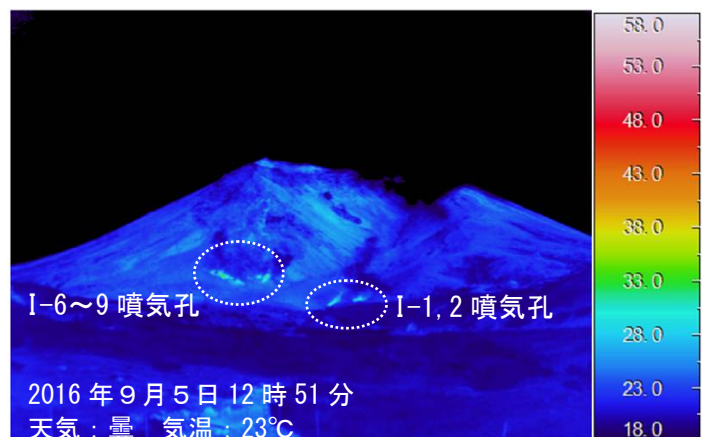


図 3 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
西側（図 2 の①）から撮影

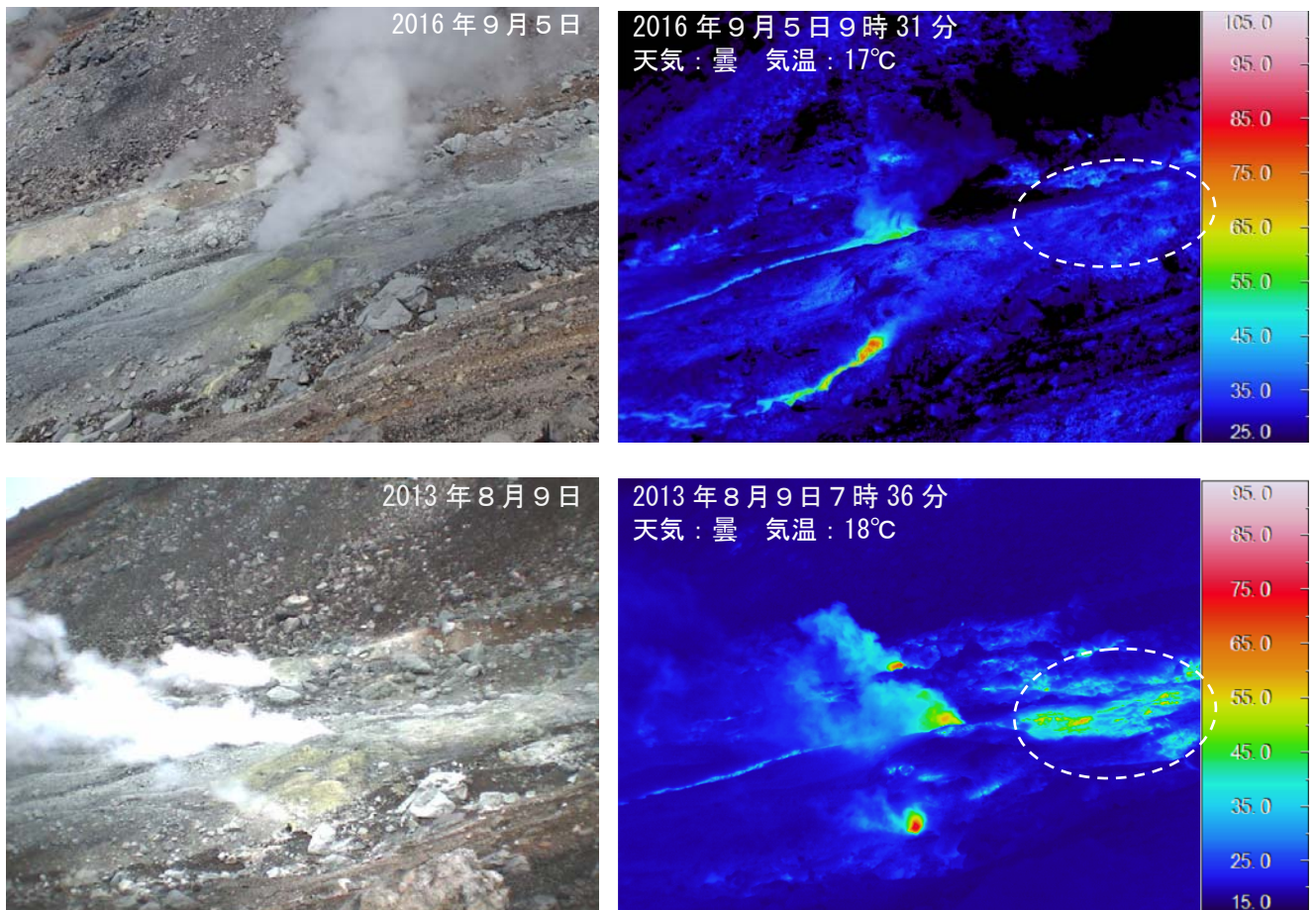


図 4 大雪山 赤外熱映像装置による I-5 噴気孔周辺の地表面温度分布
南東側（図 2 の②）から撮影
・ I-5 噴気孔南側（白点線内）の地熱域がわずかに縮小していました



図 5 大雪山 赤外熱映像装置による I-8 噴気孔周辺の地表面温度分布
南西側（図 2 の③）から撮影
・ I-8 噴気孔の温度に変化はありませんでした



図6 大雪山 西側から見た旭岳の状況（9月30日、忠別湖東遠望カメラによる）
ちゅうべつこひがし

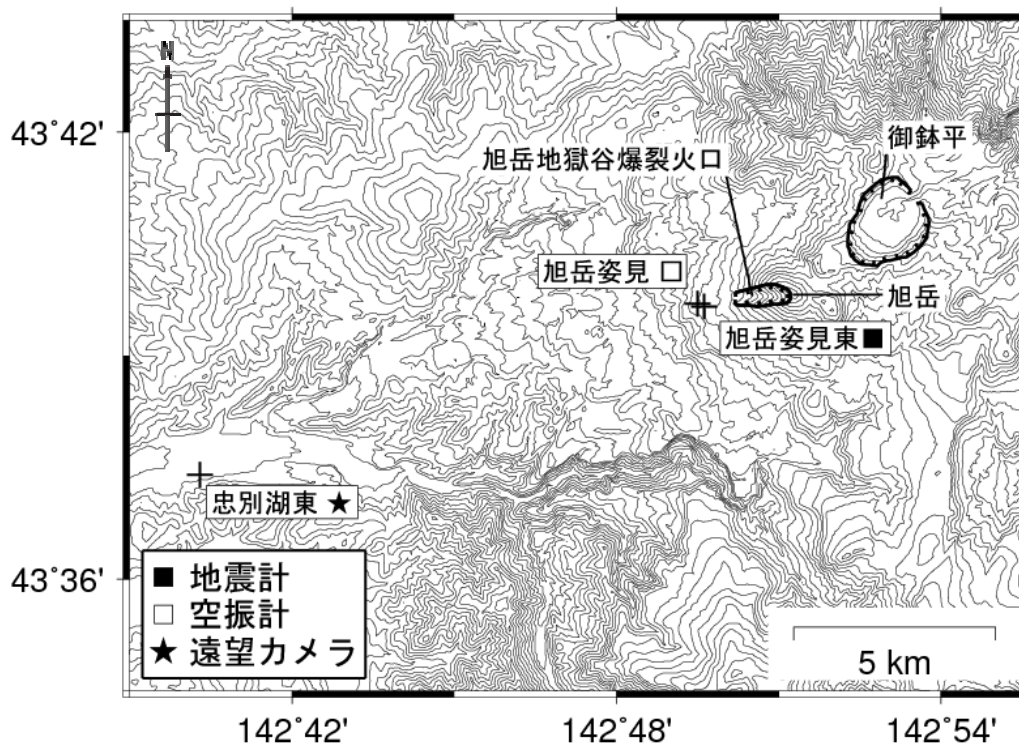


図7 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します